

不良債権処理後のステージは？

不良債権問題の処理にメドをつけた大手金融機関には、融資機能の回復を中心とした多様な金融機能の強化が求められている。それには、問題債権切離しのための最終処理を断行するとともに、統合リスク管理の高度化による能動的な与信ポートフォリオ・マネジメントの追求が課題となる。他方、地域金融機関を含めた金融システムの健全化にはなお時間を要するとみられ、その後金利が正常化すれば財政危機が国民生活を圧迫する事態を招来しよう。

インタビュー アクティブ・ポートフォリオ・マネジメントの構築を 過大なリスクを切り離し金融機能を強化すべし

日本銀行 審査局長

稲葉 延雄



経済指標の改善、株価の回復で金融機関に対する市場の評価は明らかに上向いている。日銀審査のスタンスも、金融機関からの不良債権・株式などのリスク切り離しから、ペイオフ全面解禁を視野に入れた信用供与チャネルの変革にシフトしているようだ。稲葉審査局長に金融機能回復から強化へ向けた金融機関経営の課題を聞いた。

(編集部)

大手行の「半減目標」
は射程に

——大手行は来年三月末までの課題である不良債権半減目標を達成できるか

多くの大手行で目標達成が射

程に入ってきた。途中経過でも、不良債権残高の減少、信用コストの低下がみとれる。

大手行では問題先の最終処理を進めると同時に、再生見込みのある先は支援していくという

取組みが実をあげている。ま

た、全体的に緩やかながら景気が上向いてきているなかで債務者区分がランクアップするケースもみられる。

——大口問題先の処理は済んだと考えてもよいか

取組みは進んでいる。大手行

は産業再生機構や整理回収機構の活用、外部の専門家の知恵を借りるなど、いろいろな工夫をしながら、大口問題先を再生させている。ただし、大口問題先の処理にメドが立ったかどうかはわからない。

企業の価値創造に寄与する 金融機能の発揮を

匿名座談会



ほとんどの大口問題先は銀行のコントロール下にあるが... (写真は福岡ドームとホテル、共同)

中途半端な再生企業の 存在に問題残す

出席者

- A: 経済官庁
- B: 金融アナリスト
- C: 大手行企画部

不良債権処理が最終局面に差しかかっている。竹中平蔵金融担当大臣は、「大手行の健全化は着実に進んでいる」と、〇五年三月末を期限とする不良債権問題の解決に自信を示し、株式市場の注目点も不良債権から収益力へシフトした。問題企業の最終処理、金融機能の回復というシナリオを実現するため、大手行に要請されている課題は何か。経済官庁、株式市場、銀行経営の最前線で働く中堅幹部に忌憚ない意見を聞いた。

焦点は最終処理の断行に

——大手行の不良債権問題は終息に向かっているとみてよいか

A 政府内での認識は世代によって異なる。上の世代は解決したと思っている人が多いだろう。個人的には個々の企業の事業リストラは依然不十分と考えている。

成熟経済において企業の優勝劣敗は必然だ。いまはゼロ金利で「金融社会主義」が浸透しているが、今後景気がよくなっていけば、投資余力、金利上昇への耐久力の面で同業他社との差が明確に現われてくる。

B 銀行においても、不良債権

問題は解決したと思っている経営者が多いだろう。どの企業もどんな順番で処理していくかについて、一応の整理がついたからだ。

先般のカネボウ再建も、そうした文脈から理解することができる。三井住友銀行は〇三年度上期、最大の懸案だった不動産関連の問題先を実質破綻先に落とし、下期以降、最終処理に着手するメドをつけた。そこで、次のステージとして最初に手がけたのがカネボウ再建というわけだ。しかし、現実には相対的に財務内容が良好とされる東京三菱銀行でさえ、問題先の最終処理が完全に終わったとはいえ

地域金融機関の健全化まで ゼロ金利・デフレは継続する

金利正常化後には財政危機が国民生活を圧迫

経済産業研究所

研究員 小林 慶一郎

【要旨】

景気回復と不良債権処理の進展により、大型金融危機の懸念は小さくなった。しかし、地域金融機関の問題は深刻で、解決までにはあと数年はかかると思われる。その間、下支えのためのゼロ金利政策（量的緩和政策）は継続せざるをえないだろう。物価もデフレ基調が続くと考えられる。金利が正常化し、デフレから完全に脱却できるのは、金融システムがほぼ完全に健全化したときである。

しかし、その後、ゼロ金利が解除されれば、累積した公的債務が金利上昇に伴って国民生活を圧迫する。現在ではゼロ金利によって財政に対する国民の危機感は麻痺させられているが、金利正常化とともに、財政危機が深刻化すると予想される。国債管理政策に万全を期す必要がある。

景気回復が鮮明になるなかで、金融システムの健全性に対する危機感は薄れてきている。とくに、株価が一万—二〇〇〇円台で安定してきたため、大手行が突然破綻するような金融危機が起こる危険は少なくなった。

しかし、地銀など地域金融機関をみると、不良債権の総資産に占める割合は依然として高く、油断は禁物だ、という関係者も多い。また、金融システムの問題は、後述するように最終的には公的債務の問題に集約さ

れることに留意する必要がある。民間金融セクターが健全化し、デフレが緩和されれば、公的債務の問題が日本経済に大きなしかかることになる。金融システム問題の今後と、長期的な公的債務問題を考察する。

ペイオフ解禁後の

地域機関の健全化に問題

ここ数年で、不良債権処理は急速に進展しており、銀行セクターの資本増強も進んできてい